

2024 家族のきずなエッセイ

第12回 作品集



主催

今治伯方モラロジー事務所

協力校

今治市立伯方小学校・吉海小学校・宮窪小学校・
上浦小学校・大三島小学校
今治市立伯方中学校・大島中学校・大三島中学校

目 次

ごあいさつ 今治伯方モラロジー事務所 阿部 真三・・・1
代表世話人

エッセイ入賞者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

入 賞 作 品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3～22

【 選 考 委 員 】

選考委員長	馬越 義文	(元伯方小学校長)
選考委員	山本 幸由	(元伯方小学校長)
	村上 尚宣	(元吉海小学校長)
	馬越 真由美	(主任児童委員)
	吉平 美晴	(主任児童委員)
	大澤 久美子	(今治市内小学校教諭)
	村上 篤子	(主任児童委員)

◇◇ ごあいさつ ◇◇

今治伯方モラロジー事務所は、三年前まで、今治市伯方島島内の小中高等学校を対象に計 10 回の「家族のきずな」をテーマにしたエッセイの募集をして参りました。そして、一昨年前は、今治市内の他のモラロジー事務所と合同で、市内全域の小中学校を対象に募集を行い、昨年からは、また単独に戻り、しかし募集対象を今治市の大島、大三島、伯方島の小中学校に絞り、行うことと致しました。今年も昨年同様に募集をいたしましたところ、206 編もの応募をいただきました。

先生方には、お忙しい中、ご協力いただき厚くお礼申し上げます。今年作品の中には、困難の中にあっても、家族が一丸となって共に、助け合い、乗り切っていく様が書かれたものがあり、家族の間の愛情の深さ、絆の強さが伝わってきました。

私たちは、令和という新時代を迎え、社会が激しく変化している気がします。ウイルスによる感染症、気候変動、少子化、国際化、世界的な地域紛争、人工知能などの技術革新により、社会が様変わりしてきた気がします。そんな時にこそ、子供たちには家族の存在が大切になってくるのではないのでしょうか。家族がいるから頑張れる。家族の結束が子供たちの生きる力になるのではないかと思います。この事業では、子供たちが書いてくれた作品が、子供たちだけでなく、それを読む私たち大人まで、あらためて家族の大切さを再確認し、より良い家庭、家族ひいては地域づくりになる一端にでもなればと思っています。

本冊子「家族のきずな」エッセイ作品集には、応募いただいた中から選んだ 20 編の入選作品が掲載されています。掲載されなかった残りの作品の中にも素晴らしいものがたくさんありました。

最後に、このエッセイ事業に対しご協力いただいた各学校の先生方、審査員の皆様、生徒の親御様、ご協賛いただいた会社の皆様にはたいへんお世話になりました。この場を借り、厚くお礼申し上げます。今後このエッセイが、継続発展していくことを願いあいさつとさせていただきます。

今治伯方モラロジー事務所
代表世話人 阿部真三

第12回「家族のきずな」エッセイ入賞者

【今治市長賞】

織田 羚希 大島中学校3年1組 家族に感謝を伝える・・・3

【今治市教育長賞】

日野 櫻子 伯方中学校2年A組 二人の祖母・・・4

【モラロジー道徳教育財団賞】

西森 奏多 伯方小学校4年1組 ぼくのお母さん・・・5

【愛媛県モラロジー協議会賞】

田中 麦 吉海小学校5年松組 これからも家族四人で・・・6

【入 選】

洲野戸 朔 伯方小学校4年1組 自まんのばあば・・・7

西森 巧人 伯方小学校4年1組 とうろう流し・・・8

宇栄原 海 吉海小学校4年松組 お母さんのぬくもり・・・9

武田 帆音 伯方小学校5年1組 大好きなひいおばあちゃん・10

村上 瑠奈 吉海小学校5年松組 自まんの家族・・・11

片山 統吏 伯方小学校6年1組 おかえり姉ちゃん・・・12

藤岡 花音 吉海小学校6年松組 あったかい家族・・・13

阿部 佳歩 伯方中学校1年A組 私の大切な家族・・・14

菅原 貫介 伯方中学校1年A組 いなくなっても大丈夫・・・15

濱 翔真 伯方中学校1年A組 家族に感謝していること・・・16

國貞 晴由 大三島中学校1年A組 ぼくを支えてくれる応援団・17

村上 桃愛 大島中学校1年1組 祖母との幸せ・・・18

村上 桜菜 伯方中学校2年A組 お母さんに伝えたいこと・・・19

中坂 華 伯方中学校3年A組 家族との時間・・・20

中野サクラ 伯方中学校3年A組 私の尊敬する人・・・21

松岡 七虹 大三島中学校3年A組 家族への感謝「ありがとう」22

【 今治市長賞 】
家族に感謝を伝える

大島中学校 3年1組 おりた りょうき
 織田 鈴 希 さん

小学校二年生の時に母が癌で亡くなった。その時初めて「死」という悲しみを覚えた。いつまでたっても涙が止まらなかった。その涙は母に対してできたことがたくさんあったという悔し涙でもあった。自分だけ母のお見舞いに行かなかったり、一緒にご飯を食べなかったりしたことが悔やまれた。だから今は仏壇に果物を供え、手を合わせている。そうすると、なぜか一緒にいるような気持ちになる。

僕は母の分まで健康で長生きしなければいけないと思っている。父と母、姉、兄、僕の五人家族が天国で再会した時、母に「手料理を作って。」とわがママを言ってみたい。そして感謝の気持ちを伝えたい。

母が亡くなり、僕たち家族は祖父母と暮らしている。祖父母には生きているうちに感謝の気持ちを伝えようと思っている。

【今治市教育長賞】

二人の祖母

伯方中学校 2年A組 ひの さくらこ
日野 櫻子 さん

私には、二人の祖母がいる。

一人は田舎に住んでいる「ばあちゃん」。昔からのしきたりや生活の知恵など、何でも知っている。無駄遣いをせず、堅実な生き方を教えてくれる。この前、昔作った布団をクリーニングに出していた。

「櫻子が一人暮らしをする時に、持っていったらええ。」と、言ってくれた。

もう一人はちょっと都会に住んでいる「ばあば」。七十歳を過ぎても、一人でライブに参戦する。人形やミニチュアのコレクターでもあり、私にとっての偉大な師匠でもある。

「将来、ばあばのものは全部さくちゃんにあげるからね。」と、言ってくれる。

本当に正反対の、「ばあちゃん」と「ばあば」。でも、二人とも私の話を「ほうでほうで」「へえ、そうなんね」と、楽しそうに聞いてくれ、「私の将来が楽しみだ」「応援している」と言ってくれる。

二人の祖母がいて、私は幸せだ。

【 モラロジー道徳教育財団賞 】

ぼくのお母さん

伯方小学校 4年1組 にしもり かなた
西森 奏多 さん

ぼくのお母さんは、ぼくや弟、お姉ちゃんのためなら何でもがんばってくれます。夏休みの間、ぼくたちは平日はサッカー練習、毎週土よう日は、サッカーの試合。姉ちゃんも平日に部活の練習や発表会があります。ぼくたちの予定を書きこんであるカレンダーは書きこみでいっぱいです。

お母さんは、

「大丈夫。どうにかするから。」

と、いつも言っています。急にお願いされることもあるらしく、お母さんは仕事の人と話し合いをしながら、ぼくたちをゆう先して、動いてくれています。

「疲れた。」

と言ってねているお母さんにぼくたちは、

「いつもがんばってくれてありがとう。」

と、言いました。これからもいっぱいめいわくかけると思うけど、元気で笑ってくれるお母さんでいてほしいです。お母さんの笑顔はぼくたちのパワーのみなもとです。

【 入選 小学校の部 】

自まんのばあば

伯方小学校 4年1組 すのと さく
洲野戸 朔 さん

ぼくのばあばは、元気いっぱいなばあばです。暑い日も寒い日も家でおしごとをたくさんしています。どんなにつかれても

「しんどい、つかれた。」

などの弱音をまったくはきません。ぼくが家に帰ったときにお母さんが帰るまでしゅくだいをおしえてくれます。あと、ごはんなどもつくってくれます。ばあばがつくったごはんはものすごくおいしいです。その中ですきなりょうりはポテトサラダです。お母さんはばあばのオムライスが子どものときから大スキだったそうです。

ばあばはときどきおこるけど、やりたいと言ったことは何でもいっしょにやってくれます。野球や自転車の乗り方を教えてくれたのもばあばです。何をするにも、最後までいっしょにてつだってくれます。最後まであきらめないという気持ちをいつも教えてくれます。そんな大好きなばあばにおん返しできるようにすごしていきたいです。

【 入選 小学校の部 】

とうろう流し

伯方小学校 4年1組 にしもり たくと
西 森 巧人 さん

八月一日、ぼくの住んでいる所では、「とうろうを海へ流す」という風しゅうがあります。お母さんが「とうろう」に文字を書いていたのでぼくは、

「何を書いているの。」

と、聞いたらお母さんが、

「亡くなったじいちゃんの名前だよ。おぼんにじいちゃんもどった時、ちゃんと家に帰れるように流してあげるんよ。」

と、教えてくれました。

空が暗くなりはじめてから、家族はみんなで「とうろう流し」へ行きました。たくさんの人が集まっていました。とうろうを流した後、みんな手をあわせていました。ぼくも手をあわせてじいちゃんに元気だよとつたえました。ばあちゃんが、

「来年も、みんなでじいちゃんに元気だよって言えるようにしようね。」

と言っていたので、みんな元気でいられることをじいちゃんにお願いしました。

【 入選 小学校の部 】
お母さんのぬくもり

吉海小学校 4年松組 うえはら うみ
宇栄原 海 さん

ぼくは、お母さんと弟のゆうと三人家族でくらしています。お父さんは、神戸に単身ふにんをしているのでいません。ぼくは、お母さんが大好きです。ねる時も、お母さんのうでを持ちながらねむると安心してじゅくすいできます。ゆうもいっしょで、お母さんのうでを持ちながらねます。お母さんに「もう重たくて、お母さんがねむれない。」と言われます。それでもお母さんは、ちゃんと僕たちがねむるまで、そのままでいてくれます。お母さんのぬくもりを感じながら、先にねているゆうのね顔を見るのも大好きです。ぼくもそろそろ一人でねないといけないんだらうなと思うけれど、ふだんはなかなかはずかしくてあまえる事ができないので、ねる時くらいはまだいいかなと思っています。お母さんのぬくもりは、ぼくの元気のみなもとです。

【 入選 小学校の部 】
大好きなひいおばあちゃん

伯方小学校 5年1組 たけだ ほのん
武田 帆音 さん

私のひいおばあちゃんは九十さい。目がなくなるくらいに顔をくしゃっとしてよく笑うとってもやさしいひいおばあちゃん。私が小さい時から当たり前に来てくれて、会いたいときに会いに行けるきよりにいたひいおばあちゃん。「ほのちゃんはすごいのお、ほのちゃんはいらいのお。」が口ぐせで何をしてもいつもだれよりもほめてくれた。

二年前、一人での生活がむずかしくなってしまうと松山の病院に入院した。コロナ禍のえいきょうもあり、会いたい時に会えなくなってしまった。元気にしてるかな。声が聞きたいな。ほめてもらいたいな。でもやっぱり会いたいな。たまに掛けてきてくれる電話の向こうのひいおばあちゃんは、ひまわりみたいに明るくて今日も「ほのちゃんは元気にがんばってる？」と私の心配。私は、毎日元気にがんばっているからね。早く会いたいな、大好きなひいおばあちゃん。

【 入選 小学校の部 】

あったかい家族

吉海小学校 6年松組 ふじおか かのん
藤岡 花音 さん

私はバレエを習っていて、七月にコンクールがありました。それまで毎日のように練習があり、夜おそくに帰ることが多かったです。

そんな私のために、いやな顔一つせず送り迎えをしてくれたり、夜おそくにご飯を作ってくれたり、固まった筋肉をほぐすためにマッサージをしてくれたり、家族はいろいろなことをしてくれました。他にも、私の練習に付き合ってくれたり、客観的に見てアドバイスをしてくれたり、「がんばれ。」など、たくさん声かけもしてくれました。

コンクールでは、自分のために、いろんなことをしてくれた家族のためにもがんばりました。これまでの努力と家族の支えのおかげで、五位入賞を、果たすことができました。結果を家族に伝えると「おめでとう。」「がんばったね。」「すごいじゃん。」などとたくさんほめてくれました。とてもうれしかったです。

私をいつも支えてくれる、このあったかい家族がすごく大好きです。

【 入選 中学校の部 】

私の大切な家族

伯方中学校 1年A組 あべ かほ
阿部 佳歩 さん

「何か朝読書のときに読めるおすすめの本ない？」
登校前に母に聞くと、屋根裏部屋から数冊の本を持ってきました。

「これは昔お母さんが読んだ本で、面白かったから読んでみたら。」

私と母の共通の趣味は読書です。母はたまに、図書館から私が好みそうな本を借りてきてくれます。読んでみると、私の好みの本であることが多いです。逆に、母に面白かった本をすすめると、母も読んだりします。このように、普段から趣味についての会話をしているので、困り事や悩み事を母に相談しやすいです。相談に乗ってくれた後、母はよく、

「いつでも佳歩の味方だよ。」

とってくれます。

学校で悲しかったことや、傷ついたことがあったら、この言葉を思い出します。すると、心が軽くなり、安心します。私はそんな母のことが大好きです。

【 入選 中学校の部 】
いなくなっても大丈夫

伯方中学校 1年A組 すがはら かんすけ
菅原 貫介 さん

僕のじいちゃんはスゴかった。何でも知ってて、電線の修理だってできちゃう。でも、そんなじいちゃんは六月に死んだ。急だった。急すぎて頭に入ってこなかった。でも、死ぬ前に一度だけ会えた。前の優しいじいちゃんはどこにもいなかった。横になってて、呼び掛けても反応しない。悔しかった。そんな中、ばあちゃんが呼び掛けると、急に心拍数が上がり始めた。はっきり言ってびっくりした。そしてふと、僕は思った。この二人は、僕が生まれていない時から一緒。十三歳の僕なんかより、ずっと固くて深い絆があるんだと。意識がなくて何もしゃべれないじいちゃんに、ばあちゃんの気持ちには十分に伝わった。そして、じいちゃんの心臓は止まった。ばあちゃんは黙っていた。だけど、内心はきっと悲しいんだろう。その後、ばあちゃんとお話して、和室で線香をたいて、リビングに戻ったら、不思議なことが起きた。じいちゃんが窓から笑っているように見えたんだ。

【 入選 中学校の部 】

家族に感謝していること

伯方中学校 1年A組 はまとうま
濱 翔真 さん

僕は、「起立性調節障害」という、朝起きられない病気を持っています。気分が悪くて学校に行けなかったり、遅れて行ったりすることがありました。

六年生の修学旅行には、最初から行けませんでした。でも家族が、できるだけみんなと同じことができるように、頑張ってくれました。母と祖父が車で連れて行ってくれたので、気分が悪くなくても、言えば止まってもらえるという安心感がありました。夜は、父が僕たちが泊まるホテルまで来てくれました。朝は、父のいる所に行って、ゆっくりしてから、みんなにご飯を食べに行きました。その日は、レオマワールドに行くことになっていました。気分が悪く、バスに乗れそうになかったので、父が連れていってくれました。帰りはバスに乗って帰ったけど、気分が悪くなったら、すぐにバスを降りることができるように、後ろから付いてきてくれました。

家族にたくさん助けてもらったお陰で、みんなと一緒に楽しい修学旅行をすることができたので、感謝しています。

【 入選 中学校の部 】
ぼくを支えてくれる応援団

大三島中学校 1年A組 くにさだ せいゆう
國定 晴由 さん

ぼくは、小学二年生の時から野球を習っています。そんなぼくには、支えてくれる大切な応援団がいます。

父。子供のころから野球をしていたので色々アドバイスをしてくれます。平日は、仕事で疲れているのに、夕方一緒に練習に付き合ってくれます。

母。パワーが出るご飯をたくさん作ってくれます。試合前はチキンカツ、トンカツで、縁起担ぎをしてくれます。

兄。今も大学で野球を続けています。離れて暮らしているけれど、電話で気にかけてくれます。頼りになる良き理解者です。

祖父母。「応援に行けることがいつも楽しみだよ。」と言ってくれます。

愛犬。落ち込んでいる時「そんな時もあるやろ。」と会話はできないけれど、そんな目で、そばに寄りそってくれます。

ぼくを支えてくれる応援団は、ぼくの大切な家族です。頑張る力をたくさんくれます。

【 入選 中学校の部 】

祖母との幸せ

大島中学校 1年1組 むらかみ ももな
村上 桃愛 さん

中学校に入学して二か月たったある日、祖母は私のことを全て忘れていた。祖母は脳の病気になっていた。昨日までは祖母と楽しく話していたのに、昨日のことも名前も忘れていた。私は信じられなかった。とても悲しい気持ちになった。そして祖母は入院した。その後、父が「おばあちゃんの記憶はもうもどらないかも。」と言った。私は信じたくなかった。

「祖母は絶対思い出してくれる。祖母が私達家族のことを忘れるわけない。」そう思ったからだ。

次の日、学校から帰ると母が「おばあちゃんみんなのこと思い出したよ。」と言った。リハビリのおかげで、思い出すことができたそうだ。私は、嬉しくて涙を流した。私は、祖母の優しく、元気な声が好きだ。またその声で大好きな祖母に名前を呼んでほしいと思った。私は、その時改めて幸せだなと実感した。

【 入選 中学校の部 】

お母さんに伝えたいこと

伯方中学校 2年A組 むらかみ さな
村上 桜菜 さん

私のお母さんは、いつも厳しいです。そして、私は最近よく口答えをしてしまいます。私のために言ってくれているのだと分かっているけど、考えよりも先に口が動いてしまい、お母さんを傷つけてしまいます。そして、後になってから、素直に返事をしておくべきだったといつも思います。

また、「ごめんなさい」や「ありがとう」も、なんだか恥ずかしくなって、最近あまり言えていません。私が色々なことをできているのは、お母さんのお陰なのに、いつも逃げてしまいます。風邪を引いたときや、怪我をしたとき、困ったときなどは、いつも私のことを一番に考えてくれたり、大会には毎回応援に駆けつけてくれたりします。

こんなに努力して働いてくれて、家族のことを一番に考えているお母さんが、私は本当に大好きです。いつも迷惑ばかりかけてしまって、ごめんね。そして、私のそばで支えてくれて、ありがとう。

【 入選 中学校の部 】

私の尊敬する人

伯方中学校 3年A組 なかの 中野 サクラ さん

私の尊敬する人は、母です。どんなところを尊敬しているかと言うと、特によく周りを見ているところです。学校の帰り道、母と私が車に乗っていると、自転車でこけている子がいました。母は車から降りて、その子の所に駆け寄り、色々聞いて、その子に電話を貸し、お母さんに電話をかけるように言いました。その時母は、用事があると言って急いでいたのに、駆け寄っていくところを見てすごいと思いました。他にも、誰もやりたがらない役割を、母はよくしています。

「何でやるっていったの？」

と聞くと、

「誰もやらないなら、やろうと思って。」

といいます。私は何かをやる時、自分にこれができるのかと、とても不安になります。だから、これを聞いて驚きました。

「母さんって、強いね。」

と言うと、

「今だからだよ。」

と言っていました。私は、今出来ないだけで「私はこれが出来ない人間なんだ」と決めつけず、将来は母のような、強くて優しい人になりたいと思いました。

【 入選 中学校の部 】
家族への感謝「ありがとう」

大三島中学校 3年A組 まつおか なな
松岡 七虹 さん

普段、生活している中でみなさんは「ありがとう」を言って、しっかり家族に感謝を伝えられていますか。

私は毎日「ありがとう」という言葉を、欠かさず言うように心がけています。自分が働いていない限り、働いてお金を稼いでくれているのは家族です。さらにその家族は、毎日の生活の中で私たちを支えてくれています。私の母は、おいしいご飯をつくってくれたり、毎日嫌いな家事をしてくれたりしていて、父は、疲れる仕事を毎日頑張ってくれています。家庭によってそのかたちは様々だと思うけど、私たちを支えてくれているのは間違いなく家族です。だからこそ、今、自分にできる最大限の「ありがとう」を言い、手伝いや掃除など少しでも家族のための助けができればいいなと思っています。これからも家族に感謝し続け、自分が大人になった時は、自分の家族のために何かできるように、周りの人にも感謝できるような大人になりたいです。

◇協賛企業・団体◇

(五十音順)

あいえず造船株式会社	阿部汽船株式会社
有津むらかみクリニック	協和汽船株式会社
しまなみ造船株式会社	津倉産業株式会社
日興汽船株式会社	日鮮海運株式会社
伯方塩業株式会社	伯方化学株式会社
伯方果汁株式会社	伯方造船株式会社
富士建設株式会社	村上秀造船株式会社
村上石油株式会社	山中造船株式会社
麗澤海運株式会社	

本事業にご協力、誠にありがとうございました。

今治伯方モラロジー事務所は、公益財団法人モラロジー
道徳教育財団より設置を承認された組織であり、よりよい
社会づくりに貢献することを目的とした社会教育活動を行
っています。

公益財団法人モラロジー道徳教育財団は、倫理道徳の研
究と社会教育を推進する研究教育団体です。大正 15(1926)
年に法学博士・廣池千九郎が創立して以来、一貫して人間
性・道徳性を育てる研究・教育・出版活動を展開し、生涯
を通じて学びを深める「生涯教育」とともに、親から子へ、
子から孫へと世代を重ねて道徳性を育む「累代教育」を提
唱しています。

伯方島 第12回「家族のきずな」エッセイ作品集

◇発行日：令和6年12月1日

◇主催・企画・運営：今治伯方モラロジー事務所

代表世話人 阿部 真三

〒794-2304

今治市伯方町北浦甲 1351-20

TEL：(0897) 73-0176

※ 当作品集に掲載の入賞作品の無断転載を禁じます